

2020年度まちづくり連続講座をオンラインで開催！

東京のまちづくり活動トピックス

0歳から100歳までの多様な市民が集う『喫茶ランドリー』の経営者の田中元子さんに、withコロナの社会でも、楽しく活動をすすめる上でヒントとなるお話をしていただきました。

withコロナの今だからこそ始めよう！

1階づくりはまちづくり

日時：2020年9月4日(金)13:30~15:30

開催方法：Google Meet

共催：東京都生活協同組合連合会 地域生活研究所

参加人数：44名(参加生協9 他団体4)

趣味を通して
気づいた「グランド
レベル」の重要性

自前の屋台を引いて、路上でコーヒーを振る舞うことで生まれる見知らぬ人々とのコミュニケーションを最高の「趣味」、「マイパブリック」として楽しんでた。この「趣味」を通して「まち」を観察する機会に恵まれ、目に飛び込んでくる全体的な風景＝グランドレベルの大切さに気が付いた。

グランドレベル
はプライベート
と公共の交差点

そこに人がいることでいきいきとした生気をやどす。人がどのようにそこにいるか。それがグランドレベルの価値を決めている。

補助線の
デザイン

モノ・コトだけを用意しても始まらない。白い画用紙に少しでも線が写っていると、そこから絵になっていく。活動も同じ。



講師：田中 元子さん

株式会社グランドレベル代表取締役社長

ひとの能動性が
発露する場所

「喫茶ランドリー」

2017年に築50年の空きビルのリノベーションの話が持ち込まれ、私設公民館を意識して開店したのが「喫茶ランドリー」。まちの家事室として、ミシンを置いたことをきっかけに、様々なアクティビティが生まれた。ミシン教室や企業の勉強会に使われたり、電子ピアノで歌ってみたりと、気づけばオープンから半年で100件ものイベントが開催された。「喫茶ランドリー」が企画したものはひとつもない。そしてスタッフも公募したことはない。自分がよかれと思ったこと、こうしてみたいと思ったことが実現できる場所それが私がやりたかったこと。喫茶ランドリーは今、いろんな人の表現のおかげで、開店時とは異なる新しい姿を見せてくれている。

【アンケートの感想より】

- ・とても面白かったです。喫茶ランドリーの立ち寄りやすくする工夫をお聞きし、訪れる人がその作り手にいつでもなれるような雰囲気があることは大切なことだと思いました。
- ・以前から自宅の道路に面したエリアに、近所の子も達が自由に集えるベンチを置きたいなあと考えていたのですが、お話を聞いてやっぱり実験してみようというワクワクが生まれました。
- ・田中さんの実践のように、そこから人が感じられる取り組みが生協で出来たら、そこにどれだけ多くの可能性が集まってくるだろうとワクワクしながらお話を聞いていました。田中さんありがとうございました。今度、洗濯物持って伺います！



居場所があるから
ひとびとはまちの
中に居られる

デンマークに、人口密度が683人/km²のオーフスという街がある。日本国内で言うと、茨城県の大洗町と同じくらいだが街は人で溢れている。街には外に出たくなるスポットがたくさん。人がそこにいたくなるしかけは設計できる。

「まち」に誰もいなくなったが「喫茶ランドリー」は開けていたし、誰かしらそこにいた。少しでも華やかに、自分の服や、知り合いの野菜、カラフルな手作りマスクなどを店先で売ったりしていた。SNSでは毎日発信してつながりを感じていた。

コロナが
やってきた
...けど

リアルに
会える価値

あなたが
したいこと
=
あなたにしか
できないこと